

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を基本として仕事に臨めるよう、朝礼時・会議時に、皆で理念の読み上げを行なっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の自治会に参加し、年間行事の清掃作業や総会などにも参加している。又、近隣の店への買い物や外食・理美容等をできるだけ利用し、利用者様も地域を頼りに生活している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	電話での相談を受けたり見学者などの対応を行っている。グループホーム以外のサービスについても相談内容によっては説明や紹介を行い対応している。自治会の総会で介護、認知症の窓口になれるよう声掛けを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族会代表、自治会長（民生委員を兼務）、行政担当者などが参加し、ホームの状況報告や今後の取り組み等について話し合っている。参加者の意見や助言を記録に残し、参考にしてサービスの向上に活かすよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当窓口へ密に足を運び、ホームの現状報告や相談等を行ってサービスの質の向上に努めている。運営推進会議にも毎回包括支援センターより参加いただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についてマニュアルを作成し、年に一回の勉強会を開催しており、困った事があればその都度グループホーム会議にて話し合う場を設けて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。昼間外に出たいとの様子が伺える時は職員が付き添ったり、見守りを行い、積極的な外出援助が行えるように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてマニュアルを作成し、年一回以上、学びの機会を設けている。常日頃より身体の観察や言葉使いについても職員同士注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年一回施設内で勉強会を開きおり、権利擁護に関する理解を深めている。今後、外部研修にも積極的に参加し、さらなる理解を深める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族・ご本人に対し説明を行い、疑問点を尋ねた上で、理解・納得を得、契約を結んでいる。理解が難しい場合は、御家族様や居宅ケアマネを交え話し合う機会を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事の際の家族参加の声掛け、意見や要望を聴く機会を設けている。運営推進会議にも家族会の代表者に参加して頂き意見を伺っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼を毎日行い、職員の意見や提案を聞いて、運営に反映させている。週1回のグループホーム会議も行い、全職員間で話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事は、常に観察・把握しており、深夜勤務の労働に対して賃金アップも昨年実施した。又、国の交付金も活用し給与水準向上に努めている。有休を利用して、長期の休暇での職員のリフレッシュ化も進めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に対してはカリキュラムを設け、入職時研修を行っており、現職員については、月一回の勉強会を行っている。外部研修には、参加出来ていない為、今後、積極的に参加していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各居宅、病院、デイサービス等を定期的に訪問して交流を図っている。又、意見の交換を通して他の施設の良いところを取り入れてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には本人との対話を通し要望等を聞き、思いを受け止めるように努めている。話に出てきた内容は記録に書き留め、全職員がきちんと理解した上で統一したケアが行えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には御家族様との対話を通し要望等を聞き、思いを受け止めるように努めている。又、リスクについても十分説明している。話に出てきた内容は記録に書き留め、全職員がきちんと理解した上で統一した関係づくりが行えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態を把握する為に本人や御家族から聴き取りを行い、アセスメントを行っている。その中で必要な支援等、検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活において、料理の手伝いや洗濯物干し、買物や花植え等本人の残存能力を見極め、また出来る部分は自分で行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出・外泊・医療機関の受診・季節の行事への参加など連絡をとりながら出来る範囲で協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊はいつでも受け入れている。本人が希望されれば住みなれた家や友人宅、行きつけの店や希望された他科受診援助等、外出援助も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の日ごろの関係を把握し、トラブルを回避したりお互い仲良くできるように、職員が仲を取り持っている。食事テーブル等の配置も職員が人間関係を見極め配置している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所や長期入院で退所されても、必要に応じ利用者様・御家族様からの相談援助や支援を行っている。職員も、機会があれば退所利用者様へ面会に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族様や、本人との日常生活の行動・対話を通じ情報を得、意向の把握に努めている。判断に困る時は、行動・表情・サイン等から意向の把握に努め、ミーティングで話し合い、本人本位の支援方法を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・ご家族・ケアマネジャー、面会時にご友人などから以前の生活歴・趣向・サービス利用等を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個々の生活支援の様子を記録に残している。入居者様に変化があった場合、朝夕の申送りの議題にあげている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたって、本人、家族には、面会時や電話で意見を聞いている。介護支援専門員、介護、看護スタッフにて話し合いサービス計画を作成している。モニタリングは毎月行い、三か月に一回評価をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付き等、ケース記録として残している。ケアについては毎日のケア実施記録として実践状況をチェックしている。毎朝の申し送り時や申し送り用ノートを使用したり、毎週のグループホーム会議時に話し合いをして個々の介護計画の改善や見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や要望に応じ、余暇活動、外出援助等、多岐にわたって援助できるように努めている。母体の隣接する東医院のOT、PTに来てもらい、心身機能の低下予防に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	より豊かな暮らしが楽しめるよう職員間で情報を出し合い、共有している。適切と思われる資源があれば、積極的に活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望により、隣接の病院が主治医となっており、居宅療養管理指導にて、月に2回の訪問診療がある。急な状態変化に対してもすぐに往診を行っている。他科受診が必要な方には家族に説明を行い同意を得、受診援助を行っている。受診後には主治医に報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の状態に変化があった時は職場内の看護職員や隣接の看護師に報告し、助言をもらう。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、心身の状況や日常生活、服薬等について報告したり早期退院に向けて相談している。MSWとも密に連携を取る事で状態把握に努めている。入院中は職員が面会に行き病院での様子を伺ったりしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点で将来に向けた本人・家族の意向の確認、施設で出来る事やできない事の説明は行っている。重度化した場合は、施設で対応しきれない部分や代替援助等について御家族様に了承を得る。場合によっては他施設等への紹介や申し込み代行も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は意識レベルや外傷の有無を確認して、必要に応じて隣接の主治医に報告している。緊急時の対応の方法については緊急時対応マニュアルを作成して対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設では消防署の方々に参加していただき、年2回の火災に備えた防災訓練を計画し行っている。次回の訓練時は、地域の消防団にも参加頂く予定になっている。非常食の備蓄も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づいた介護をめざしている。プライバシーを保ち、人格を傷つけないよう言葉や対応には気を付けている。常日頃より職員には人格の尊重を念頭に置き対応するよう話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位を基本とし、出来る限り利用者様の話を聞き、希望を取り入れられるように頑張っている。利用者様の状況によっては行動に付き添い、自己決定出来るように導いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュール表の一日の流れはあるが、一人一人の生活のリズムを大切にし、職員側のスケジュールを調整し対応している。行事等への参加も無理強いせず、本人の意向を伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に合った衣類の準備を家族に相談して準備して頂き、更衣時は本人に衣類を選択してもらっている。行きつけの理美容室があれば連れて行き、希望のお店が無ければ毎月第二木曜日に移動美容室が来て、本人に希望に添えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人の管理栄養士が作成した献立に基づき調理している。又、日常会話の中で好きな物を聞き、季節の食べ物を多くするようメニューを決めている。利用者の希望によって月に2回刺身の日もある。調理の下ごしらえや盛り付け、後片付けなども手伝ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士指導の下、高齢者の献立の要点や一日に必要な摂取量・水分量、食中毒について勉強会を行ったりアドバイスを随時いただいている。食事量や水分量が一日を通して少ない場合は捕食等を提供し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自立度に応じ、一部介助や仕上げ磨きを行う。義歯使用の利用者は、夕食後は義歯を預かり化学的清掃を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録をし、一人一人の排泄パターンを把握している。これらの記録や利用者の排泄サインから判断してトイレ誘導を行い、失禁の減少と自立支援に取り組んでいる。下剤やオムツの使用については担当者や看護職員を交え、問題があればその都度検討を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にはなるべく野菜を取り入れ、毎日牛乳を飲用している。排泄記録を参考にして、水分摂取量にも気をつけている。便秘の度合いによっては主治医の指示で緩下剤に頼る事もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には一日おきに入浴できるように、声掛けや誘導を行っている。拒否や体調不良等あった時は曜日や時間にとらわれず、心身の状態が落ち着いてから行っている。失禁等により汚染した場合、24時間いつでもシャワーを使用できるように対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の夜の入床は、各々のペースに任せている。昼間はできるだけ離床し活動的に過ごしていただけるよう支援している。昼食後の昼寝等、身体的に無理が無い程度で自由にとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース記録に最新のお薬説明書を挟み込み必要な時はいつでも閲覧できるようにしている。受診後に処方の変更があった時は薬剤情報を申し送りノートに記録し、皆で確認し、服用後の症状の観察には注意を払い対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のレベルに合わせて趣味や特技を活かしたり、役割を担って頂いている。嗜好品の買物、ドライブ、外食援助、お祭りなどのイベント等個々の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の勤務状況にもよるが、可能な限りは希望に沿った外出援助を行っている。場合によっては御家族様や地域の人々と連携し、出かけられるように支援している。周辺の散歩や買い物等は日常的に支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の持ち込みを遠慮してもらっているが、金銭を希望された場合は少額のお金を持って頂いている。買物等、ある程度本人の好きなように使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙の投函代行援助も行っている。電話での取り次ぎや、希望された時の連絡も支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光良く、夏期は、日差しが強いのでゴーヤでグリーンカーテンを作り対応した。貼り絵などで季節感を出したり、行事の写真を貼って楽しんでいる。天気の良い日は、なるべく外へ出て頂き、季節の空気を感じて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間は一体化しており、個々の利用者様の好きな場所がある。気のあった人と一緒に過ごしたり、介護者との傍にいて安心されたり、一人で外を眺めたりと、皆さん自由に過ごされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやクローゼットは備え付けてある。テレビや寝具は本人が使い慣れたものを持参していただいている。ご家族との思い出の写真や絵手紙、自宅で使われていた物等をできるだけ持ってきていただくようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内のバリアフリー、廊下や風呂場等動線に合わせた手摺等の工夫がされている。介護用具も取りそろえ、自立度に応じた援助が出来るよう備えてある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない